

親愛なる町村民諸君に訴ふ

坑夫の生法

吾々は別子鑛山に働く勞働者であります。鑛山の勞働は「佐渡の金山」この世の地獄」と唄はれたり「唄の中なる千松は……」と淨瑠璃の中の文句に唄はれてゐるやうに、一度も坑内に入つたことのない人には、とても想像もできないやうな危険なものであります。現に別子の山でも多い日には二十人からの負傷者があります。死人も一年に十二三人から二十人位あります。この世の中に山の勞働位危険な恐ろしい勞働はありません。

今回の事件

かう云ふ危険な不安な恐ろしい勞働に従つてゐる吾々は幾分でも生活の上で安心を見つけ出したいと思つて、多勢相談の上で色々な必要と思ふ條件を鑛業所に實施して貰はうと欲願書を出した譯であります。然るに會社は吾々を犬コロカ猫の子のやうに取扱つて、吾々がどんなに静肅に柔順に面會を求めても、會はうとせないのであります。吾々は自分や自分の妻のために少しでも安心して働くことができるやうに眞誠な思いで頼んでゐるのであります。決して一時の氣マシで頼んでゐるのではないのです。それで、堪えられないやうな侮辱を與へられても、要求が容れて貰へずればと思つてデット、我慢して柔順に頼んでゐるのであります。

九日夜の事件

然るに、會社の總務課長は陰險な策略をもつて世の中の事情にウトイロウドウ者の小敷の者に僅かばかりの手首を出して、情實に弱い、さうして純朴な多數のロウドウ者を引張らして、改善會なる偽善的なゴマカシ的な團體を作らして、ロウドウ者同志を離れさせる手段を取つて來たのであります。

九日夜に改善會の諸君が組合の事務所を襲つたのは全く總務課長の言葉巧みな煽動に因るものであります。即ち總務は六日に山に登つて九日下山するまで各部落で改善會の會合を開かして、其の糧トで「アルコト」「ナイコト」八百を列べてロウドウ者を煽動したのみならず、それだけでは足りないで更に下山する場合は數百のロウドウ者や或は仕事を休まし或は仕事場を無理ヤリに引つ張り出して惣開に連れて行き、酒食を供して再び動揺したのであります。

諸君、吾々は六日夜は鑛業所門前に籠居を覺悟しましたが、警官から畏れも皇族殿下の御生誕を聞いて謹慎して禮意を表すために其處を引上げ、翌七日は一日中各自居屋に歸つて靜居にして居つたのであります。然るに總務は前記の如く狂奔しつ、あつたのであります。果して何れが國民としての義務を果したのでありやうか。彼等がそんなことを言つてゐても、イヤと云ふ總務に事實に現はさなかつたならば何んにもならないのであります。彼の行動は明かに不謹慎たる責は免かれないのであります。それから九日の日にしても、吾々は約五十名ほど鑛業所の門前に行つてゐたのであります。けれども、改善會の諸君が多數來ると聞きまされたので、互いに氣の立つてゐた時であるから、どんな簡便があつても何んからと正午前に柔順しく引上げて、各自部落に歸つたのであります。然るに總務は又も拘らず、殊に角野村に組合事務所があることは充分承知の上でありますから、徒歩で歸らしたことは、腹黒き總務が組合事務所を襲撃せしめやうとする作戦でなくして何んであります。殊に鑛業所支關前の會合で一組合事務所へ行かうと云ふ提議をした者があつて彼を首め一同は賛成してゐるのであります。吾々はこの点に就いて賢明なる諸君の御意見を特に乞ふのであります。

吾々は如何なる場合においてもロウドウ者同志離隔する意志なんかは露ほどもありません。況んや同じ棟に雨濡を渡いでゐる仲間同志で微かに恨みのないものがどうしてケンカをすることができません。然るに總務は非人情にも無智なロウドウ者を煽つて仲間ケンカをさせて漁夫の利を占めやうとするのであります。純朴なる多數のロウドウ者は知らず知らずのうちに彼ののためにグマサレて仲間ケンカをするのみならず、果ては恐ろしい騒擾の罪人となるのであります。總務の人非人的な作術は如何に金儲けのためには云へ、言語同斷の至りであります。

吾等はあくまで正しく

總務を首め會社の人々は利益の前には眼中に入情もなければ徳義もないのです。彼等は今後ともどう云ふ衝動を弄して吾々を壓迫し、迫害し、困窮に陥らすかも知れません。吾々はそれには覺悟してゐます。唯彼等が暴力を用ゐて、吾々の生命が危険に迫つた時は別ですが、さもない限り絶対に、諸君が不安恐怖を感ぜられるやうなことはいたしません。この点は特に保証して置きます。

從來、勞働組合と云へば、法の亂暴でも、團體のやうに誤解されてゐましたが、これは全く會社側の逆宣傳で、現に今度の事件でも其新聞の如きはよくもズウ、いゝん事を書けると思はれるやうな記事を書いて、會社の御用を努めてゐます。どんな逆宣傳があつても、ロウドウ組合は、資本家のために苦しめられてゐるロウドウ者の生活を擁護し、改善し、向上せしめることが其職分であり、資本家のために苦しめられてゐる組合の秩序正しき節制と正義の強い行動とを見て頂きたい。

今後とも吾々は吾々の要求が貫徹するまでは石に齧りついても職を決心して居ります。諸君に於いても我々の眞意が御諒解できましたら、我々のために精神的物質的の御援助下さいませう御願ひいたします。色々な風評を聞きますので、この際我々の立場と態度とをハッキリと諸君の御諒解と御同情とを得る次第であります。

大正十四年十二月十五日

愛媛縣新居郡角野村

別子鑛山争議團本部
日本勞働總同盟 別子鑛山支部